

哀悼：「アルスの会」名誉会長 伏見康治先生ご逝去

[お知らせ]

伏見康治大阪大学・名古屋大学名誉教授が、5月8日夜 横浜市内の病院で老衰のためお亡くなりになりました。6月29日のお誕生日を前にした98歳でした。謹んでお知らせいたします。

2008年5月9日 小沼通二

伏見家 葬儀・告別式 5月13日11時30分～午後1時
式場 妙蓮寺斎場 横浜市港北区

「弔辞」 小沼通二(本会幹事)

伏見康治先生

笑顔の先生といくつかのご相談をした5月1日から、まだ2週間たっていません。この日の先生の明るい笑い声が耳に残り、今日このような形でお別れしなければならないのが、信じられない思いであり、残念です。



思い返してみると、1952年に日本学術会議の会員であった先生は、講和条約発効後の日本で原子力研究・開発を始めることをいち早くお考えになり、調査活動をされていました。先生は、「色々な人が現れ、また色々な会合が催されて、私はつるしあげにあった」とお書きになり、9月6日に会合があったことも書かれています。学生だった私が、超満員の会議室の入り口から初めて先生のお姿を拝見したのは、この日でした。これらの調査や意見を整理して、「軍事目的の原子力研究は一切行わない。研究結果はすべて定期的に公開する」という構想をまとめられました。これが元になって、「原子力憲章 伏見案」になり、学術会議の声明を経て、原子力基本法の基本方針ができたのでした。

先生は、物理学の研究・教育にとどまらず、特色のあるすばらしい解説を次々にお書きになりました。さらに生涯を通して「科学者と社会」、「原子力と平和」の問題について広く考えをめぐらし、発言され、行動されました。

私が先生と直接お話しをするようになったのは、1950年代の終わりごろからでした。最初は日本学術会議の委員会でした。そして後には、バグウォッシュ会議、科学者京都会議などの場で一緒になりました。

また、1955年に発足した世界平和アピール七人委員会は、1980年代から活動が低下していましたが、国内外の状況を深く憂えた伏見先生の並々ならぬ熱意によって、2004年に再発足しました。私は先生からのお誘いで、それ以来お手伝いして、今日に至っています。伏見先生は、核兵器は廃絶しなければならないという確信をお持ちでした。「世界の原子力の軍事利用のもとでは、平和利用の健全な発展は難しい」とお書きになっています。最近では、プルトニウムの再処理と利用計画についてたいへん心配され、厳しい見方をされていました。このことを、もっと広い範囲の人たちに直接訴えていただく機会が失われたのが残念です。

先生は、日本学術会議会長、参議院議員・科学技術特別委員会委員長として、科学の振興、学術行政に深く関わりました。科学の国際交流・国際協力にも熱心でした。ソ連が崩壊し、科学研究の継続が危機に瀕したときには、日本の科学者とのネットワークを作ることを奨励し、速やかに浄財を集めて、数年にわたり多数のプロジェクトを経済的に支援することを実践されました。

何年も前から、年下の知人の病気や訃報について、「彼も年だからなあ」といわれるので、私たちは、先生は不死身なのだと思っていました。先生が、「僕も年だから」といわれるようになったのは、一昨年からだったでしょうか。それでも、東京都内での会合に、横浜から電車に乗って往復されることが、今年まで続きました。私は、先生と共通の会合に出る機会がしばしばありましたので、何年にも渡って同行して往復する途中で、先生との会話を楽しむという特権を享受させていただきました。先生、ありがとうございました。

1909年生まれの先生は、人類愛に支えられ、理想主義と現実主義のバランスをとられながら、好奇心に満ちた見事な百年の生涯を送られたのでした。これからは安らかにお休みください。ご冥福をお祈りいたします。

伏見康治先生葬儀・告別式 2008年5月13日 妙蓮寺にて 小沼通二